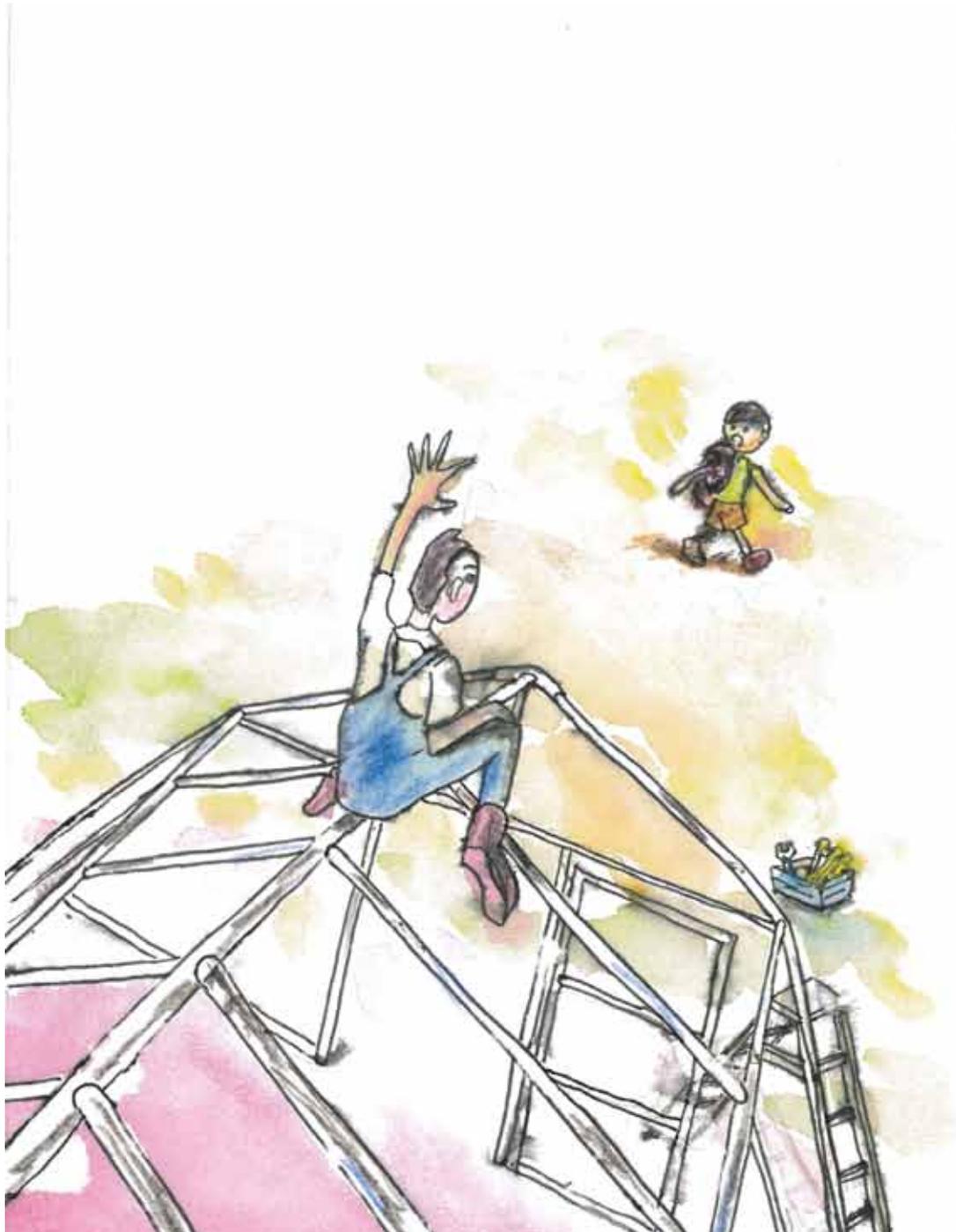


ソファの種たね





ものを だいじにしなさいって よく言われるけど、
こわれちゃったんだもん。
しかたないじゃないか。



そんなある日。

あのおじさんに出会った。

「あ、ちょっときみ！その箱の中の道具、取ってくれない？」

「ありがとう。」

「おじさん、ここでなにしてるの？」



「ソファを作るじゅんびをしているところだよ。きょうみある？」

「う．．．うん。」

作ってるのを見るのは初めてだから。」

「そうか！おもしろいぞ～。ソファ作りは。」



「まず、いま建てたのはビニールハウス。

小さなソファは、寒いのが にがてなんだ。」

「つぎに種。これがソファになるんだよ。これを土に植えて・・・」

「・・・???

ソファってこうやって作るの?!」

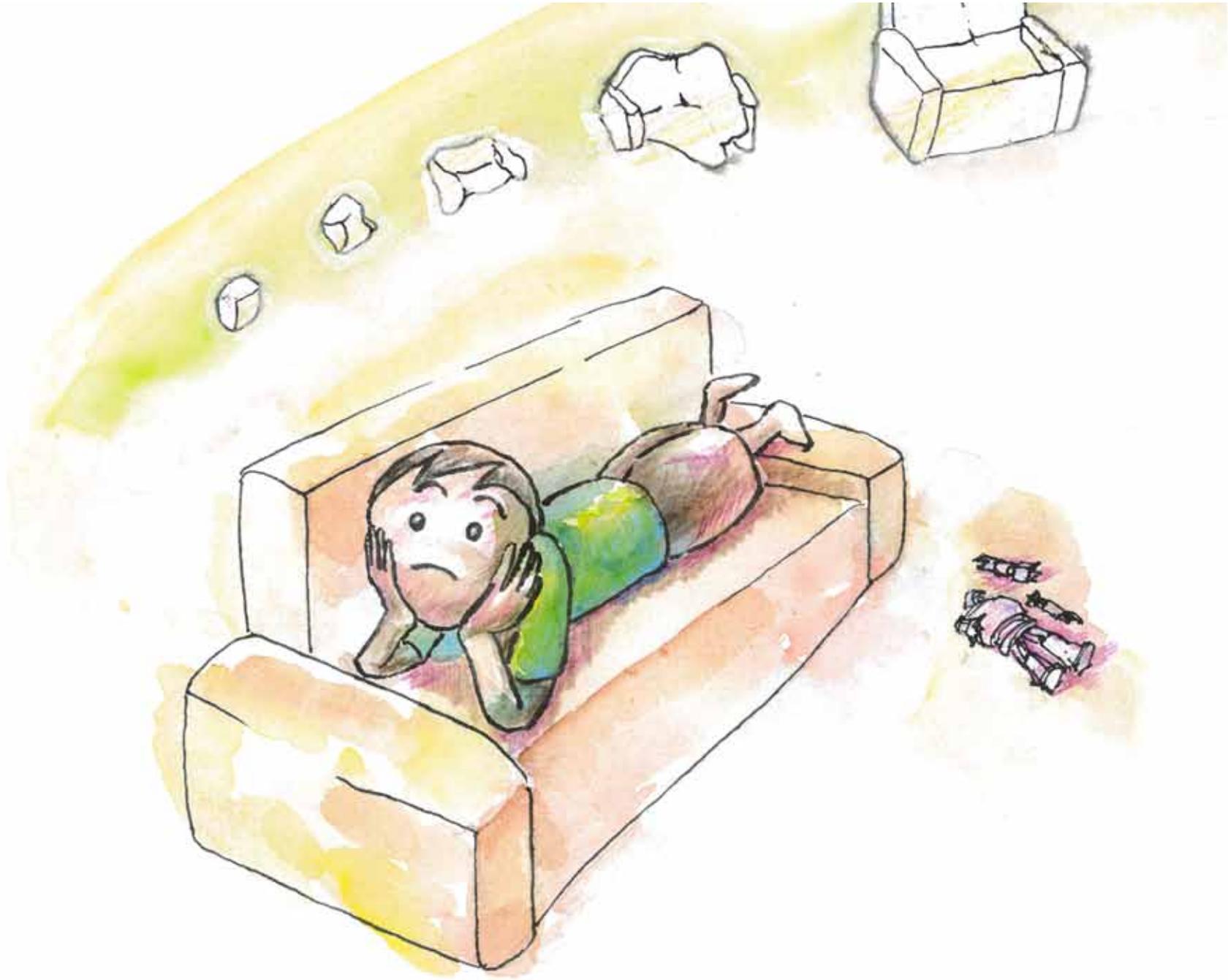


「まあ、それぞれやり方はちがうけど、これがおじさん流かな。」

「いつでもおいでよ。どうやって作るのか見せてあげる。」

「うん。」

こうしてぼくは、おじさんとなかよくなった。



ソファの種かあ・・・。
ふしぎなおじさん。



ぽつとに土を入れ、種を植える。

そしてたっぷりの水をやり、新聞紙をかぶせる。

「あと1週間くらい待つよ。」



「わあ。芽が出た！」

「たくさんおひさまに当てて、水をあげよう。」

「半分くらい かれちゃった・・・」

「うまくいかないね・・・。」



「でも見て！先の方はもう、りっぱなソファだよ。」

「こんどは畑に植えかえするよ。

もっともっと大きく育てなきゃ。」



「ソファっていろんな形があるんだね。」

「そうなんだ。おなじ種なのに、形や色もちがうんだよ。

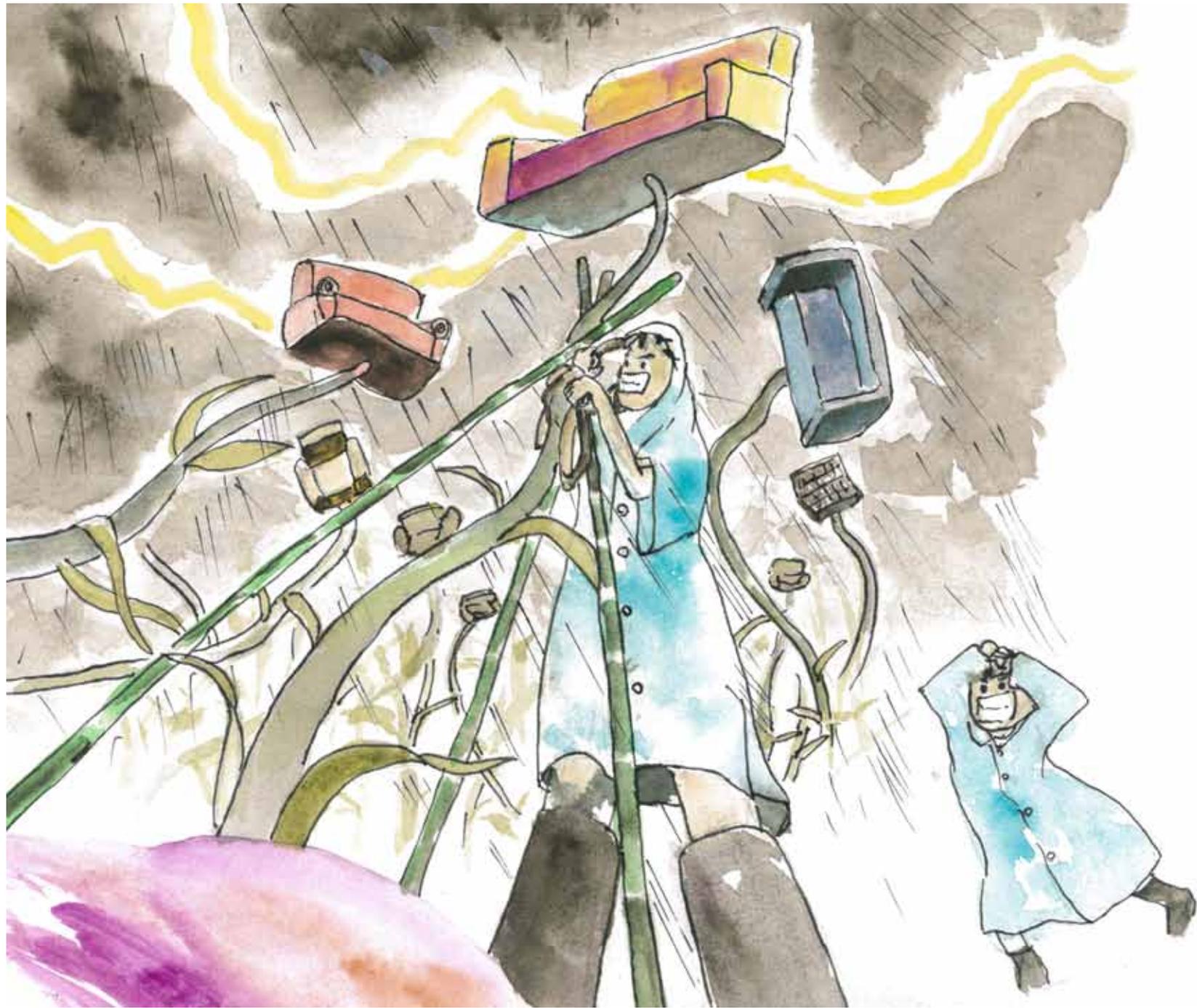
おなじように育てても、個性があるんだ。」

「ふうん。おもしろいね。」



雨にも負けず、風にも負けず、ソファはぐんぐん育っていった。

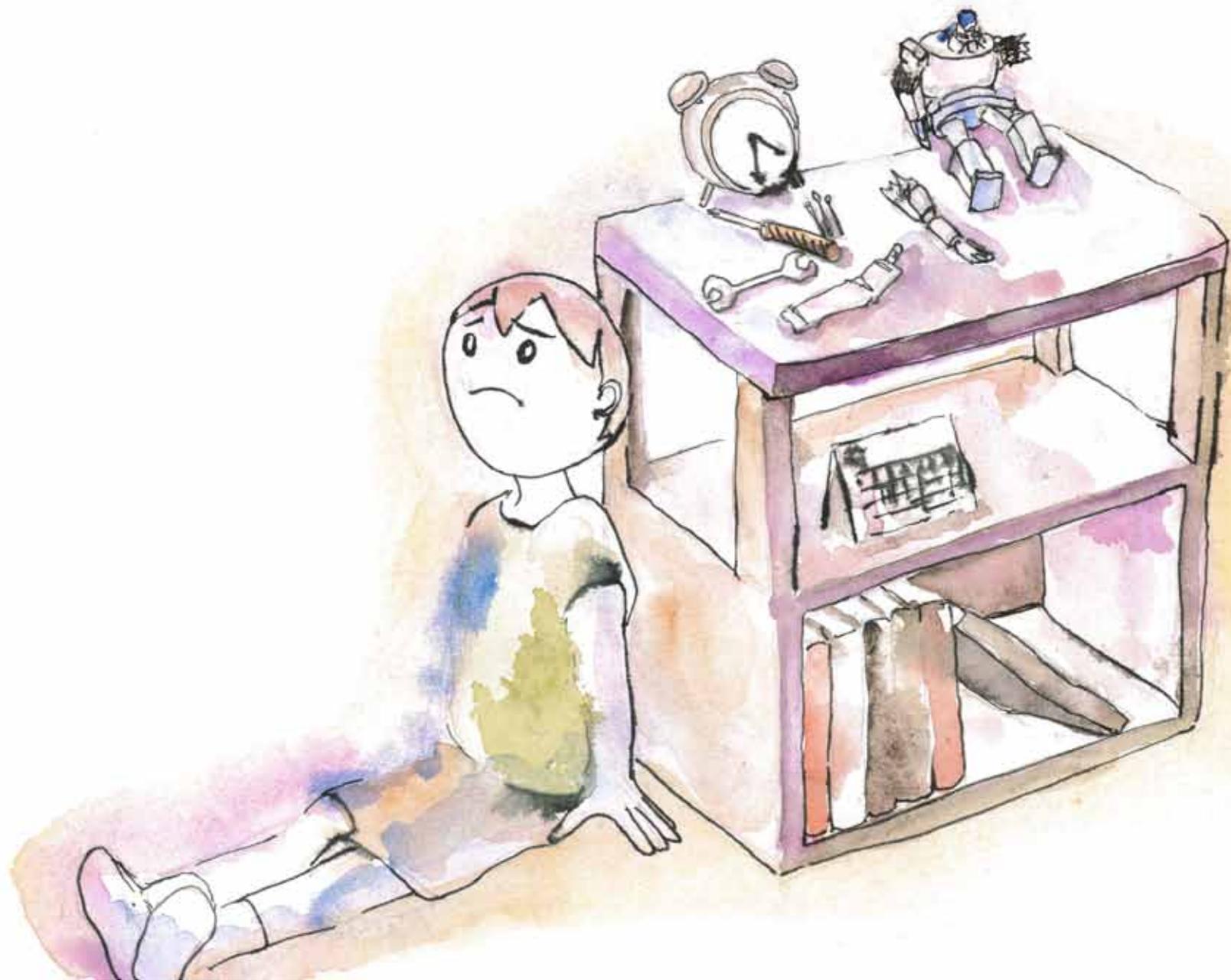
ところが・・・



嵐だ！

「棒にしっかりとめなきゃ！ソファがたおれてしまう！

きみは帰りなさい！あぶないぞ！」



だいじょうぶかな・・・。

ぼくは心配でしかたなかった。



嵐にやられて、残ったのは結局3つだけだった。

「あんなにがんばったのに・・・。」

「しかたないさ。でも、3つ残ってよかったよ。」



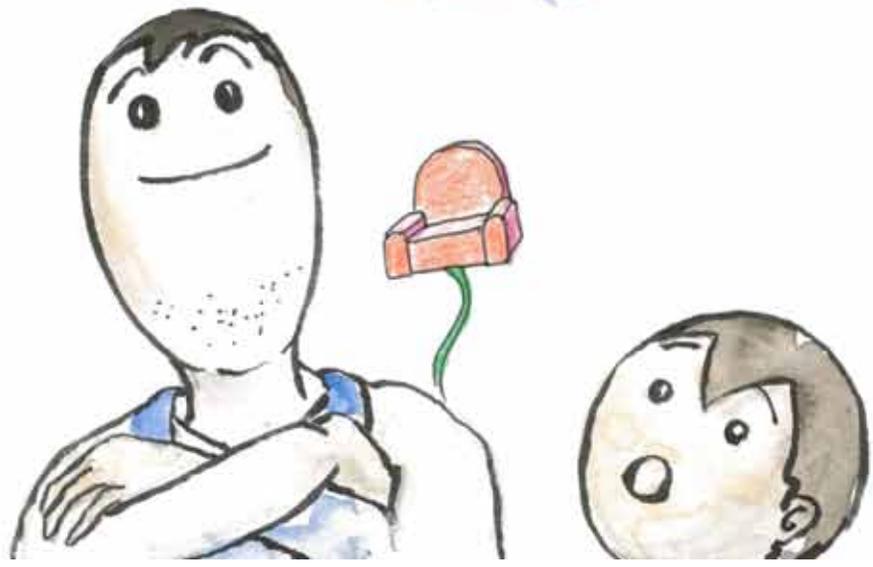
「おじさんはね、まだ3年目なんだ、この仕事。

はじめの年なんか、できたのはたった1つだったよ。」

「ぼく、こんなに大変だなんて知らなかった。」

「でも楽しいよ。いっしょけんめい作ったソファ、

使ってくれるのは、どんな人だろうって想像してさ。」



とうとう、おじさんのソファは完成した。

「お店に運んでもらって、おしごと、終わり！」

「あのひとつは売らないの？」

「あれは、来年のための種になるんだ。

だから、あともう少し植えておくよ。」



それから間もなくのことだった。

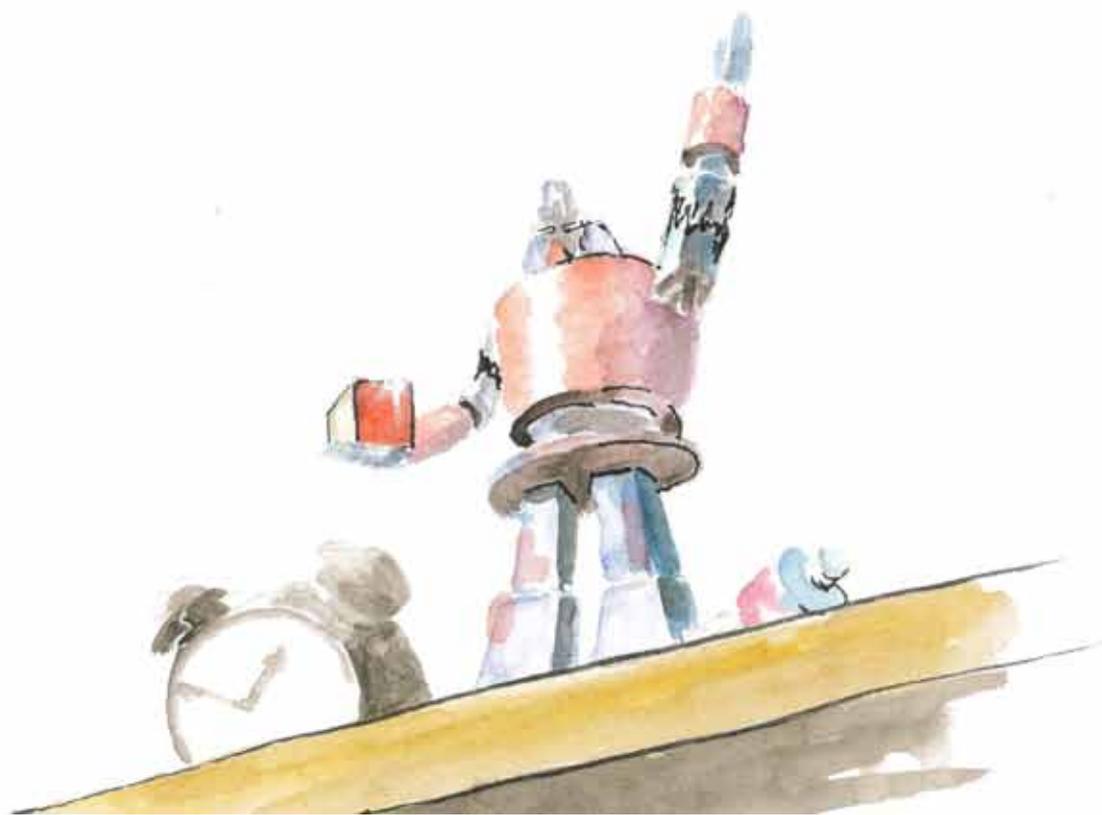
最後のソファがはじけて、たくさんの種ができたのは。



「きみにひとつあげるよ。

むずかしいと思うけど、育ててみて。

きっと、世界にただひとつ、きみだけのソファになるよ。」



ぼくのまわりには、たくさんあったんだ。
誰かがいっしょうけんめい作ってくれたもの。

おじさん、この種は、
ぼくがもうちょっと大きくなってから植えることにするね。

NOYES
SOFA 100%



2016年2月27日発行

著者 つまぬまファーム

発行者 株式会社 NOYES

第4回 NOYES 絵本コンクール ZIP 賞作品

